

市・市民・事業者が、同じ方向を向いて東広島市の環境保全の取り組みを進めるためには、将来の東広島市の環境の姿をより具体的に示した目標像を提示する必要があります。

そこで、21世紀半ばを展望した東広島市の環境の姿（21世紀半ばの将来像）を以下に示します。

【21世紀半ばの将来像1】

「豊かな自然と共生した快適に暮らせるまち」

社寺林や溪谷など、市内各所に残された原生的な自然環境が適切に保護されるとともに、人々の営みとともに形づくられてきた里地里山を主体とした自然環境が保全・活用されています。

緑豊かな山並みを背景にした赤瓦の集落や茅葺きの民家とその周辺に広がる農地は、地域の環境とともに生きてきた先人の長い歴史と伝統に培われた景観として大切に守られ、継承されています。

特に、森林や農地は、生産活動やバイオマス資源及び環境保全としての活用を通じて、持続的な管理がなされ、多様な生物と共存できる里地里山での生活が営まれています。

市街地では、公園や水辺などの憩いの空間が整備され、公共施設や住宅、工場の緑化も充実しています。また歴史的、文化的資源や町並みが保全されるとともに、都市的な町並みの景観も整えられ、快適な都市空間が形成されています。

河川は、下水道整備等の生活排水対策の充実や家庭での取り組みの進展等により、夏にはホタルが飛び交い、四季を通じて野鳥が訪れ、また海は、海底堆積物の除去やごみ対策等の効果により、良好な漁場環境として持続的な活用が図られ、健全な水循環が再生しています。

大気環境や土壌環境などへの汚染物質の排出は適正に管理され、きれいな空気など良好な状態が保たれています。

このように、森林・川・農地・都市の緑・海などの環境が連続的に保全されることによって、市域全体での生物の多様性も確保されています。

また、それぞれの世代が楽しめる自然空間が確保され、自然観察や水遊び、ハイキングなど、様々な形で豊かな自然とのふれあいを楽しんでいます。



【21世紀半ばの将来像2】

「身近な取り組みから地球環境保全に貢献するまち」

市民一人ひとりが環境を意識し、3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）を基本とした「ものを大切にする習慣と分別の徹底」によって、家庭から排出されるごみの量は着実に減っています。工場・事業所、商店等でも環境意識の高まりや廃棄物削減の努力によって、事業系のごみの排出量も大幅に減っています。

リサイクル商品の販売やノートレイバック、量り売り、マイバッグの持参など、商品の売り方から買い方まで、資源の有効利用とごみの減量化を意識したライフスタイルが定着しています。

ごみのポイ捨てや不法投棄は既になくなっていきます。

太陽光、太陽熱利用をはじめとする再生可能エネルギーの導入が、公共施設をはじめ、個々の住宅や事業所においても進んでいます。

節電や緑化など、省エネルギーの取り組みにも積極的で、特に、家庭からの二酸化炭素排出量は大幅に削減されています。

利便性の高い公共交通ネットワークの構築が図られ、駐輪場の整備などが進み、自家用車に過度に依存しない、誰もが安全かつ円滑な移動ができる環境が整っています。

バイオマスタウン、地産地消の取り組みや資源循環ビジネスなどの展開により、有機農産物のブランド化や東広島市発の環境商品などが開発・販売され、これらの活動が産業振興や地域の活性化につながっています。

このように市・市民・事業者が責任と役割を自覚し、一体となって資源とエネルギー利用のあり方を見直し、省エネルギー・低炭素型社会へと転換しています。

さらに、「国際学術研究都市」の中核を成す、大学、研究機関、国際協力機関等を通じて、地球環境の保全と温暖化防止に向けた国際協力が展開し、環境先進都市として他の自治体をリードしています。



【21 世紀半ばの将来像3】

「環境を守り・伝える心と活動を育むまち」

環境を守り育てる心が市民に浸透し、ふるさとの良好な環境を次世代に引き継ぐために、「自然を傷つけない」、「ごみを減らす」、「水を汚さない」などの環境に配慮した行動を当たり前のこととして実践できる、環境に対する意識の高い人々が暮らしており、「エコタウンの先駆的モデル都市」として、周辺都市や国内外において広く認識されています。

東広島市の環境に関する情報が充実し、誰もが好きなきときに、環境に関する情報を発信・入手できるようになっています。

市内の大学等の教育研究機関等と連携した市民向けの環境関連講座等を通じて、東広島市の自然や伝統文化、環境関連分野に応じた充実した環境教育プログラムや体験的環境保全プログラムが提供され、子供から大人まで幅広い層の市民が日常的に参加しています。

そこで学んだ市民による環境活動は、コミュニティ全体に輪を広げ、環境ボランティア活動の拡大など成熟した継続的な取り組みに発展しており、各コミュニティ間の横断的な連携も進んでいます。

産業分野においても環境保全に関する意識が浸透し、事業規模の大小にかかわらず、環境マネジメントシステムの導入や環境に配慮した事業・生産活動が積極的に展開されています。

